

# 第 10 回 中央区自治協議会 会議録

開催日時	平成 28 年 1 月 29 日（金曜）午後 3 時 00 分から午後 5 時 10 分まで
会 場	市役所本館 6 階 講堂
出席者	<p><b>委員</b></p> <p>藤田委員, 清水委員, 田村(幸)委員, 外内委員, 浅野委員, 高橋委員, 加藤委員, 渡部委員, 中村委員, 本間(之)委員, 青木委員, 廣瀬委員, 川崎委員, 伊藤委員, 竹田委員, 志賀委員, 大堀委員, 関谷委員, 三條委員, 菊地委員, 佐藤委員, 水品委員, 豊嶋委員, 津吉委員, 津田委員, 長谷川委員, 本間(伸)委員, 相田委員, 杉原委員, 小島委員, 田村(勝)委員, 肥田野委員, 渡辺委員, 大坂委員 出席 34 名 欠席 4 名(星野委員, 李委員, 井上委員, 岩田委員)</p> <p><b>事務局</b></p> <p>[新潟市役所] 市長, 水と土の文化推進課長 [中央区役所] 区長, 副区長, 区民生活課長, 健康福祉課長, 保護課長, 建設課長, 東出張所長, 南出張所長, 中央公民館長, 地域課長, 地域課長補佐</p>
議 事	<p><b>1 開会</b></p> <p>○会議の成立について 委員 38 名中 34 名出席のため, 規定により会議は成立</p> <p><b>2 平成 28 年度 新潟市政の展望 (資料 平成 28 年度 新潟市政の展望) (議長=豊嶋会長)</b></p> <p>(議 長) それでは次第にそって会議を進めさせていただきます。 はじめに, 篠田市長より平成 28 年度新潟市政の展望についてご説明をお願いいたします。</p> <p>(市 長) 皆さんこんにちは。今日は悪天候の中おいでいただきまして, ありがとうございます。第 10 回ということですが, 今年に入っては初めてということになるかと思えます。今年もよろしく願いいたします。また, 皆さま方におかれては新潟市政, 中央区政の円滑な運営, また, 様々なご提案, ご助言を頂いていることについても感謝申し上げます。 それでは, 先ほど申し上げた資料に沿って説明をさせていただきます。平成 28 年度新潟市政の展望ということですが, 番号順に説明させていただきます。 まず, 最新のトピックスということですが, 1 月 10 日, 万代シテイに NGT48 劇場がオープンしたということですが, 48 グループの劇場の中で一番いい劇場だと関係者が申しております。大勢の方がお集まりいただいておりますので, これを新潟の活性化にも結びつけたいと思っております。</p>

そして来月、2月12日から14日の3日間、スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・新潟ということで開催されます。新潟市と南魚沼市が会場ということになります。ご承知のとおりスペシャルオリンピックス、知的障がいのあるアスリートの方でございますが、全国からお集まりいただき、また、ボランティアの方、観客の皆さんと一体となって、これまで感動的なシーンを数多く演出してきているということでございますので、ぜひ、皆さまからもご参加いただければと思っております。また、今年の4月1日からは新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例がいよいよ施行されるということでございますので、私どもも障がい者とともに生きるまちづくりという形を進めてまいりたいと思っております。

さらに、4月に入りますと23、24日、土日ではありますが、G7新潟農業大臣会合を新潟市で開催いただけるということで、新潟の食と農の魅力を国内外に広く発信する大きな機会だととらえて、機運醸成、またその前に安全の運営に努めてまいりたいと思っております。この大臣会合が新潟市で開催いただけるのも、我々新潟市が農業戦略特区に指定をいただけたことが大きいのではないかと考えております。この農業戦略特区、昨年の後半から非常にいい形で事業が進み出しているということでもあります。規制緩和を使ったものとしては、農業生産法人の規制緩和、こちらで九つの企業、グループが手を挙げてくれているということでもあります。その中にはローソンあるいはセブン&アイ・ホールディングス、さらにJR東日本というような日本を代表する企業の方が農業に参入していただいています。また、クボタグループの中で最も動きの早い先進的な取組みをしていただいている新潟クボタ、さらに地元の新潟麦酒、ひらせいホームセンターなど、地元の方も数多く手を挙げていただいているという状況であります。特に新潟クボタは、昨年、西区の耕作放棄地、砂丘地畑でありますけれども、ここに小麦で耕作放棄地を再生するという取組みを開始し、地元の製粉会社がパートナーとしてパンの原料にし、パン屋に並ぶと。絵に描いたような6次産業化、そして耕作放棄地の再生ということを手掛けてくれています。今年は西蒲区でも輸出米に絞った米の栽培に取り組むということでございます。

また、障がい者雇用に取り組むアイエスエフネットライフ新潟など、大変多彩な取組みがスタートしているという状況になりました。また、農家レストランにつきましても、今年の恐らく3月に3軒ともということになると思いますが、西蒲区でフジタファーム、そしてワイエスアグリプラント、さらに北区ではタカギ農場と三つの農家レストランがオープンすると。そこに素晴らしい牛肉あるいは野菜、トマトなどを作っている、食材には太鼓判を押されているところがレストランを作ると。素晴らしいロケーション、タカギ農場は素晴らしい建物、木のすごくいい建物を造って、それも売り物になるのではないかとと思っております。年度内にオープンいたしましたら広くアピールしてまいりたいと思っております。

そしてそれ以外にも、農業委員会との事務分担あるいは融資がこのような形で進んでいます。雇用労働相談センターをNEXT21に国が作っていただいたと。農業関係は割と労働条件などがしっかり決まっていないところもありますので、後からトラブルにならないように事前に相談を頂く、また、農業関係以外の相談も大いに頂

きたいと思っております。

次でございますが、国家戦略特区で規制緩和を使わないけれどもという企業も次々と手を挙げていただいていると。電通はゲノメディアという東京大学発のベンチャー企業、ゲノム解析で非常にレベルが高いところと組んで、まずは枝豆、新潟の枝豆がどうしてうまいのか、それをゲノム的に解析し、さらにうまさを引き出していくというところを手掛けてくれております。中期的には、低湿地帯でも栽培が容易な大豆の品種改良も視野に入れているということでございます。

さらに、職の関係のメディア、情報関係で最大手のぐるなびと新潟市、昨年2月に地域活性化包括連携協定を結ばせていただきました。全国では京都市に次いで第2号ということであります。農業戦略特区新潟の素晴らしい食材を全国に紹介するというところであります。

パナソニックは植物工場、NTT ドコモあるいはソフトバンクグループ、NTT 東日本、IHI、ICT 農業を新潟でやるということで参画を頂いております。

そして今年的位置付けであります。今年度は、合併建設計画が終了した昨年度から、新年度は政令指定都市10年という橋渡しの年という位置付けにしておりますけれども、政令指定都市でいうと土台作りを終えて第2ステージ、持続可能なまちづくりのほうに移行していこうという時期に今年はなろうかと思っております。そういう中で、昨年作って今年度からスタートしているにいがた未来ビジョン、新しい総合計画を本格的に軌道に乗せていくと。そしてまた、昨年10月末にまち・ひと・しごと創生総合戦略を新潟市も作らせていただきました。これが動き出す、まさに総合戦略が起動する元年という形で地方創生、新潟から牽引していきたいと思っております。

次に、時代潮流と市政の重要課題となりますと、やはり人口問題への対応が一番重要だと。人口減少、怖いほどの少子化、一方では高齢者がどんどん増えているというこの人口問題に的確に対応する必要があると。また、介護保険制度改革も平成29年度から待たないということでもあります。地域で医療、介護、看護、このネットワークを強化していく必要があるということでもあります。

また、健康寿命を延伸するためにも健康づくりとまちづくりを徹底連携させるスマートウェルネスシティの取組みが非常に重要だと思っております。公共交通や自転車で移動しやすく、歩いて楽しいまちづくり、これは条例も作っているわけですが、それをより本格的に動かしていくと。持続可能なまちづくり、これは持続可能な公共交通が重要だと思っております。

そして、まち・ひと・しごと創生総合戦略で新潟暮らし創造運動も本格的に推進していきたい。人口減少に早く歯止めをかけなければということでございます。

持続可能なまちづくりをやるためにも持続可能な財政運営を確立していく必要があります。新潟市は合併建設計画に取り組みまして、様々な財政の指数自体は悪化しております。政令指定都市の中でそれほど悪いということではございませんが、大体真ん中くらいという数字が多うございます。中でも主要3基金は合併建設計画を作るときに財政計画もお示しいたしまして、その財政計画で示した基金の取り崩しの範囲内で収まっておりますけれども、かなり基金の取り崩しが進んできた。これを基金の取り崩しから今度は基金を崩さない、そして基金を積み上げるという方

向に移行していく時期に、今、入ってきているということでございます。

次のページですが、こちらでも財政予測計画を踏まえた財政運営をやろうということでもあります。その中でもプライマリーバランス、いわゆる収支均衡を新年度、平成 28 年度から図っていこうと。今、その面で予算編成が大詰めということですが、かなり難儀をしながら予算編成で収支均衡を達成しようと思っております。そして、近い将来、市債残高についても縮減させていくということでもあります。それを実現するためにも、これからはファシリティマネジメントという考え方が重要だと思っております。新潟市は市民一人当たりの公共施設面積が政令指定都市の中で最大と。ただし、公営住宅を除くということでもありますけれども、この公共施設をすべて維持管理、あるいは修繕建て替えということになりますと、新しいまちづくりに使えるお金が限定的になってしまうということでもあります。これを今後はしっかりした施設に様々な機能、複合化、総合化させていきたいと。また、それが公共交通とつながっているということで、機能拡充にもつなげていきたいと考えております。既存施設の有効活用、必要な機能を地域と議論していくという取組みを今年から各地域でスタートさせていただきたいと思っております。

そして新年度の新潟市政の取組みを少し図で整理してみました。先ほど申し上げた新しい総合計画、にいがた未来ビジョンでは三つの都市像を明示しているということでもあります。その都市像を確立するためにも、新潟暮らし創造運動をやっているということだったのですが、そこに新たに人口への対応を大きなテーマとしたまち・ひと・しごと創生総合戦略が加わったということでございます。総合戦略では、しごとでは雇用創出、交流人口の拡大、ひとの部分では少子化の克服、まちでは安心して暮らせるまちということで、四つの基本目標を作っているということでございます。

この四つの基本目標の達成も含めまして、これからは三つの都市像ごとのご説明となります。まずは、安心協働都市、ずっと安心して暮らせるまちという面で、先ほど申し上げました介護保険制度が変わっていくと。この介護予防、生活支援サービス、特に要支援の部分は新潟市が責任を持つということになりますので、新総合事業への移行に向けて今年を着実に準備しなければならない。これが待ったなしのところでもあります。地域で医療、介護が受けられる、またそれを可能にする小規模多機能施設、あるいは住宅リフォームをやっていく、地域包括ケアシステムを確立する必要があるということでもあります。

そしてもう一つ、地域の拠点拡充による居場所づくりについても、東区紫竹の実家の茶の間で、地域の茶の間を全国に広めていただいた河田圭子さんから、今、運営を責任を持ってやっていただいています。そこには研修機能を入れていただいて、こういう居場所、そして他世代交流の場、地域包括のモデルハウスという位置付けになっておりますが、これを今後各区に広げていきたいということでもあります。

次のページです。男女共同参画の推進・子どもを安心して産み育てられるまちということで、まずは出会いの場づくり。これは、行政はどちらかというと苦手なほうなので、田園地帯、農村部ではコミュニティ協議会が中心になってやってくださっている西蒲区のような例もございます。まちなかでは様々なノウハウを持ってい

る NPO あるいは企業もいらっしやいますので、そういうところと連携して、望まれる方が結婚する、そのための出会いの場を多様に作っていく。そして望む方が結婚され、望むだけの子どもを安心して産み育てられる新潟を早期に作っていききたいということでもあります。

そのための一つとして、ネウボラ、これはフィンランドでやられている制度だそうではありますが、新潟でいうと先ほどの居場所づくり、その居場所に保健師がこの日はいますということで、ワンストップでいろいろなサービス、相談が受けられるというやり方です。これを新潟でも広げていきたいと思っています。そして、ひまわりクラブも小学6年生まで拡充されたということで、地域でコミュニティ協議会がひまわりクラブ運営を新潟市内で三つやっていたいてありますが、今後、いきなりひまわりクラブをすべて運営というところまではいけないけれども、例えば、社会福祉協議会、今、ひまわりクラブを運営しているところと組んで、さらに子どもたちをしっかりと我々も見守っていこう、あるいは子育て支援に手を出していこうというモデルを今後また手を挙げていただきたい。そして、待機児童ゼロの堅持。さらに、男性、女性が育児、家事で役割を果たすライフスタイルを含めて、ワーク・ライフ・バランスを推進していきたいと考えております。

次からが環境健康都市ということでもあります。まず、農業戦略特区を指定いただく基になった6次産業化、新潟市ではニューフードバレーと申しておりますが、これを着実に前進させると。そこにさらに加えまして、せっかくこれだけの大地、農業の力を持っている新潟なので、大地、農業の力をフル活用しようということでございます。どの分野に活用するか。まず、子育て、教育。これはすでに教育ファームという形でアグリスタディプログラムに基づいて幼稚園、保育園、小中学校が動き出しているということですが、これをさらにパワーアップ、レベルアップしていきたい。そして福祉も、農福連携という言葉があちこちで語られるようになりました。新潟市でも、先ほどのアイエスエフネットはインターネットの会社なのですが、日本で一番精神、知的障がい者を雇用している実績のある会社です。こちらが今度は西蒲区でたくみファームという農場をやると。そこに知的、精神障がい者も含めた障がい者に大いに活躍してもらおうということでもあります。そのほかにも様々な実践がありますので、福祉分野もがんばれると思っております。また、保健・医療分野も、新潟には様々なアレルギー対応食とか介護食とか非常食とかいろいろな食の力がありますので、そういうものが今度は病院、介護施設にもいい影響を出していく。そのようなところまで取組みを進めていきたい。エネルギーの分野では、籾殻を今年は本格的にエネルギー熱源として使っていきたいと思っています。二つのやり方が、今、実証に移行していると。一つは県立富山大学のやり方です。もう一つは秋葉区の農家を中心になってやっているということで、これを今年は軌道に乗せたい。来年以降はいろいろな地域で籾殻の活用を始めたいと思っています。こういう取組みをいろいろやっていると、首都圏などの意識の高い消費者と意欲のある農家の交流が始まるということで、すでに新潟市、様々な農家に実績がございますが、それを全域に広めていきたいと思っております。交流の拡大ということは活性化効果も大きいと思っております。

そして、持続可能な公共交通体系の構築です。先ほど申し上げた健康づくりとま

ちづくりの連携ということも含めまして、これからは持続可能なバスにしていきたいということでもあります。新バスシステムが開業したときにはシステムトラブルなどでご迷惑をおかけし、申し訳なく思っていたわけですが、2 か月目以降、かなり軌道に乗ってきたということでもあります。今、新潟市内で営業バスを利用される方、大体、従来より3パーセント程度増えたという感じになっております。従来が何もしなければ毎年4パーセント減っていたわけで、これをしっかりと定着させていきたい。また、ICカードリ्यूーとでありますけれども、これもようやく12万枚まで来たわけですが、開業以降、3か月少して2万枚増えた、14万枚を突破するということになりました。持続可能なバスづくりの土台が、今、できつつあると認識させていただいて、先日の寒波のときにもBRT区間、朝は3分間隔、夜は5分から7分間隔、定時制、5分、10分遅れはありましたけれども、これまでにない定時性の確保が実践できました。雪にも強いBRTと言われるように、まだまだ寒波が続きますので、気を緩めずに新潟交通とともに取り組みたいと思っています。

そして区バス、住民バスなど、これも営業バス路線の走行キロ数、今年度から5年間確保されましたので、それに併せて区バス、住民バスの充実を図っていこうということでございます。シニア半割についても新年度から全高齢者、65歳以上を対象にシニア半割を実施したいということで、これは一部報道されましたけれども、今、それに向けて予算編成、大詰めのところをやっていると。年度明けからは少し間に合わないと思うのですが、年度途中からそういう形を見せていけるようにしたいと思っております。

そして誰もがいきいきという部分であります。女性や若者などが働きやすい環境づくりを、先ほど申し上げたワーク・ライフ・バランス、あるいはU・I・Jターンの促進、そして元気なお年寄り、アクティブシニアが新潟に来て活躍する、いわゆるCCRCの新潟版を取り組んで人口減少を反転させていきたいと思っております。

次が創造交流都市という分野であります。まず、防災・救援首都については、新潟市が国土強靱化地域計画第1次策定モデル団体ということでご指定をいただいたので、これを基に昨年の3月に新潟市は計画の策定を終わったということでございます。足下の安心・安全度を上げる、そして仮に太平洋側が大きな被害を受けた場合、日本海国土軸、そして横断軸を強化して、新潟が防災救援首都になるという取り組みであります。これをしっかりとやってまいりたい。

そして次は、若者あるいはU・I・Jターンの方に魅力のある雇用を創出していこうということでもあります。ニューフードバレー、農業戦略特区の効果をさらに引き出して、我々は6次産業化、食品加工拠点を明確にしていきたいと思えます。

そしてもう一つ、21世紀を支える新しい産業の柱となりうる航空機産業については、すでに西蒲区でエンジン関係の共同部品工場がスタートしていると。南区も今度は機体関係であります。共同工場が本格化するということでもあります。これを最終的には新潟空港周辺を航空機産業基地にしたいということで、今、国、県と意見交換しているという状況であります。創業、起業への支援をしっかりとやっていきたいと思えます。

そして、食文化創造という部分であります。新潟市の食文化を創造発信する、今年はよりパワーアップしてまいりたいと思えます。食と農を新潟のブランドにする

ということであります。この一つの取組みとして、ピースキッチン運動を広げたいと思っております。これは昨年、ミラノで食の万博が開かれまして、日本人グループが日本食、和食でございますのでピースフードをイタリアに広めようということで、イタリアのスローフード協会と組んでピースキッチン運動として1年間展開されました。安倍首相の奥様もこのレストランにおいていただいたということで、かなりの発信力、話題づくりに成功したようなのですが、今度は日本でやりたい、その運動の拠点を新潟にしたいということで、今、準備が進んでおります。これらも含めまして、新潟、大地を大切に作る農家、こういう人たちが新潟の宝だと。そして、そういう農家を活用してくれる料理人、シェフを大いに光を当てていこうと。そして農家から料理人、消費者をつなぐ、これを運動として大きく展開しようということであります。

また、インバウンドについても昨年の9月から10月、ハルビンがデイリーで航空路が結ばれまして、新潟駅周辺に限定されていたのですが、新潟駅周辺のホテルに相当、団体、観光客がお泊まりになったと。またその方々が新潟駅周辺のお店、これも限定的なのですが、ここでは爆買いが相当の勢いで発生していると。これをいかに今度はまちなかに引き込んでいくか、あるいは田園地帯に新潟の素晴らしい魅力を尋ねていただくようにするか、これを今年は前進させたいと思っております。

また、先ほど申し上げたG7新潟農業大臣会合も非常に大きなチャンスであります。そして、昨年1年間取り組ませていただいた東アジア文化都市事業、中国チンタオ市、韓国チョンジュ市と非常にいい交流ができた。それ自体有意義であったわけですが、昨年1年で日本と中国、特に年末には日本と韓国の関係が大きく、国同士も改善したと。これを踏まえて日中韓の大交流時代を新潟から引っ張っていきたいと思っております。しかし、また年明けに北朝鮮の核実験ということもございました。なかなか環日本海、北東アジア、難しいところではありますが、それだけに平和共生を構築する、そんな役割も新潟市で担わせていただきたいと思います。

以上、私から、大変早足で恐縮でしたが、新潟、今、こんな問題意識を持ってこんな課題に取り組もうとしているということについてお話をさせていただきました。今後、このお話の部分でもけっこうですし、関係ない部分でもけっこうでございます。皆さまからご意見、ご質問など頂きたいと思っております。ありがとうございました。

**(議 長)**

ありがとうございました。

只今の篠田市長からの説明についてご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。なお、ご意見、ご質問は簡潔にお願いいたします。

**(清水委員)**

礎地域コミュニティ協議会の清水と申します。

私は地域に中心部が多いものですから、その関係上でご質問いたします。BRTの新バスシステムの件なのですけれども、昨年の暮れ、12月9日でしょうか、中心商店街協同組合からの要望があると思うのですけれども、それに対して、春までに

交通システムの変更，見直しを図りたいと篠田市長から回答がございました。それに対して，少し遅すぎるのではないかと。今現在，榎谷小路商店街並びに本町 6 番町商店街の方が苦しんでおります。お聞きしますと，売り上げが 2 割くらいの減だと。そのくらい切羽詰まった状況にある中で，春までには到底間に合わないといった意見をお聞きするに当たり，新潟市が，新潟交通に対しての大事なクライアントであるわけですから，もう少し敏速に実行に移せるような体制を早く組んでいただきたいと思っておりますけれども，その点，いかがでしょうか。

**(市長)**

ありがとうございます。榎谷小路あるいは中心商店街の人出が少なくなっているということは，この 10 年，ずっと続いている状況であります。そういう中で，通行量調査が昨年秋にございました。それで，前年度と比較すると，前年度はがたふえすをやっておりましたので大きく減ったということになります。そういう大型イベントをやっていなかった前々年度と比べると 8 パーセント程度の減少ということになります。これは，申し訳ないのですが，毎年 4，5 パーセント減っているというのがこれまでの通行量調査の大体の平均なので，概ねその 2 年分減っているということになります。人が 2 割減ったというお話，いや，3 割売り上げが減ったというような極端なお話もときどき伺いますが，あのあたりのバスの分担率は大体 8 パーセントであります。買い物客に絞ればそれは 10 パーセントというところもあるかもしれませんが，お店によっては 15 パーセントだということもあるかもしれませんが，その土台の部分を見ると，バスで来る人が一人もいなくなっても 20 パーセント減るということはあるえないと思っています。これは平均した数字で言うと，ということになります。お店の特性がありますので，お店によっては，いや，減ったのだと言われるお店はそれを信じるしかございませんけれども，そういう土台の部分の数字をしっかりと見ましようということが一つございます。そして，先ほど申したように，バスの利用者自体は減っているどころか増えているわけでございます。しかし，地点地点によってはプラスマイナスが大きいということなので，我々も榎谷小路あるいは古町，本町のことはやはりしっかりと意見交換して，そしていい方向に動いていくようにしなければならないと思っています。

そういう面で，我々，冬ダイヤをまず 12 月半ばにしっかりとやっていただいて，そして，今，春ダイヤ，これは来月，恐らく新潟交通がこのようにするというので発表できるようにしたいと思っています。それまでに様々に頂いた中心協からの要望も踏まえて，新潟交通とこういう形で，また改善が進んだと言われるように，春ダイヤを作っていきたいと思っています。ありがとうございました。

**(議長)**

ほかに皆さまいかがでしょうか。

**(外内委員)**

鏡淵小学校区コミュニティ協議会の外内でございます。

旧大和デパートの跡地の件でございますけれども，報道や巷間伝えられるお話ですとあそこに商業ビルが建てられると。しかも，その商業ビルの 1 階から 3 階くらいまでに中央区役所が入るやに聞いております。真偽が分かりませんので，この辺



の計画が現段階であるのかどうか、市長の見解を伺いたいと思います。

**(市長)**

これについては、旧大和デパートの再開発が都市計画決定まで進んだということで、組合が主体者でありますので、我々は情報交換をしながら組合の再開発の熟度が上がるように、あるいはどの程度上がるのかということ、今、確認をしているという状況であります。そういう中で、中央区役所をはじめとする行政機能については、今の白山浦庁舎などが非常に傷んでいるということもございますので、いいタイミング、いい場所があれば行政機能に移したいと思っておりますが、まだ何も決まっていないということで、まずは自力で再開発の熟度を上げていただく、その中で行政機能を入れて市民の理解が得られるかどうかを見極めるということになります。これについては、また審議会などにも随時情報を入れさせていただきながら、基本的には民間の組合が主導してやっていることでありますので、我々は組合の頑張りを引き出せるような、こういう様々なまちづくりの支援がありますという情報は入れさせていただいているところであります。

**(外内委員)**

追加でお願いします。もし、計画どおりそのテナントとして中央区役所が入るとするならば、本当に利便性があるのかどうか、大変疑問に思っております。資金がいくらかかるか分かりませんが、もし、現在の白山浦庁舎の老朽化うんぬんであれば、白山浦庁舎の旧北陸地建ですか、あの跡地を建て替えるとか、また、最近の話ですが、まだ市役所の方でも知らない方もおりましたけれども、川岸町にある県の新潟地域振興局が本年度中に秋葉区に移転するやに伺っております。その辺りも一つのターゲットとして提案することも可能ではないかと思っておりますので、参考までに、市長の耳に入れておいていただきたいと思います。よろしくお願いします。

**(市長)**

県の庁舎のことは周知の事実でございますので、それについては秋葉区役所の中に入ることで秋葉区、新津の活性化にもつなげていきたいと思っております。

**(議長)**

ほかに皆さまいかがでしょうか。

**(廣瀬委員)**

豊照地区コミュニティ協議会の廣瀬でございます。市長がお見えになったので、二、三お尋ね申し上げたいと思います。

まず第1点は、BRTを導入するときに、市長の第一声が、これによって古町が活性化できるということをおっしゃっていますが、現状を見ますととてもそのようなものではないということを市長自身が思っているのかどうか。

それからBRTの構想については、私は将来に向けて非常にいいだろうと思えます。ただ、本当にそのために連節バスの2億何千万円のお金をかけて導入することが本当にベターだったのか。現在のバスの乗客を見ておきますと、普通のバスでも日中でありまして5人、多くて10人、BRTにしましては、連節バスにしても25人も乗っていれば最高という状況を本当に市長はご存じなのではないでしょうか。そういうものを十分ご考慮なさって導入したのかどうか。

それからもう1点、導入に先立ちまして、我々の地区も下町（しもまち）に北部コミュニティセンターがございますが、ここの説明会のときに古町に乗り換え場所を作り、そこで各方面へ行くのだと。バスの乗り換え場所を作るといってお話もございましたが、実際動いてみますと、全くそういうものは説明した者もお辞めになったようでございますが、計画もないと。下町の連中はみんな市役所に行って乗り換えなければならない。説明時に我々が傍聴したときに全く異なる話をされておりました。これには市の職員あるいは新潟交通の課長職も来ておりましたが、まったくその話は反故になっております。その辺について、市長にはそういうお話があったのかどうか。この計画を立てられたときにもう少し綿密に高齢者、ましてや古町に作るときには、あの辺には屋根もございませぬ。旧大和デパートの西堀側に作るというお話でございました。今日はそのときの資料は持っておりませんが、たまたま市長がご出席ということでございますので、敢えてその点を強くご質問したいと思っておりますが、いかがでしょうか。よろしくご回答をお願いいたします。

**（市長）**

BRT はまちなかの活性化につなげるということで申し上げてまいりました。これはつなげるようにさらに改善を重ねてやっていきたいと思っております。放っておけば新潟のバス交通は衰弱していくということなので、やはり抜本的な改善が必要だと考えております。

連節バスにつきましても、これは新潟市、国の支援を頂いておりますので、8,000万円の連節バス1台の契約であると。そうしますと、新潟市の持ち出しは4,000万円ということでございますので、普通のバスの2台分に比べれば安いということでもあります。そして雪の場合も、このところ、連節バス、ツインくるにかなり多くの方が乗車いただいております。そういう面で、今度、西鉄バスも連節バスを導入するというのでございますので、運用の仕方などでまだまだ工夫の余地があると思っております。西鉄バスは大変力のあるバス会社なので、それらとも連携して連節バスの力をより引き出すようにしてまいりたいと思っております。

そして、古町についても基本的には乗り継ぎ、乗り換え地点にしていくということでもあります。これについても中心協からもその方向で要望が出ておりますし、我々も、例えば、大和の再開発のときにも組合の方々もあそこに乗り継ぎ、乗り換えの機能がある、集客の機能があるのはいいことだとお考えになっているということなので、再開発にも併せてそういう考え方、そしてその場合、国、市の支援がどういうものがあるのかも情報提供してまいりたいと思っております。

**（議長）**

もう一人お手が。佐藤委員お願いします。

**（佐藤委員）**

女池校区コミュニティ協議会の佐藤と申します。

私がコミュニティ協議会にかかわってから、4年くらい前からなのですが、12番の地域の居場所づくりと多世代交流の場を作るといっことは随分前から聞いたような気がいたします。新潟市以外のところは、田舎にこんな立派なコミュニティハウスがあったり、コミュニティ会館があったりするのですけれども、私ども女池地区などにはまだそういう集会所がございません。この前も市長との懇談会のときに山

潟地区コミュニティ協議会の会長がおっしゃっていましたが、ぜひ、私どものところにもそういったコミュニティハウス、集会場があればもっと活動できるのではないかということが一つです。

それから 13 番の待機児童ゼロということがここに書かれていますけれども、つい最近ですが、保育園から 3 歳児の保育を断られたのだそうです。それで週 1 回、土曜日にそのお母さんはパートで働いていらっしゃいます。ご主人が土曜日と日曜日はお休みなので土曜日はご主人にその 3 歳のお子さんを預けて週に 1 回だけパートに出られるということなのですけれども、そのお子さんを預かる場所がないということで、また来年も週 1 回のパートで終わるのかなとおっしゃっていたのですが、もしその子どもが預けられたらもう一人くらい子どもを作られるかもしれませんので、ぜひ、その辺も考えていただいて、私の子どももそうなのですけれども、1 月の中ごろにどこの保育園で預かれるかということをして市役所から通知が来るとおっしゃっていたそうですけれども、未だにその通知が来ないと。どうなっているのかと心配している方もいらっしゃいました。待機児童ゼロということを堅持なされるのであれば、もう少し早めに皆さんのところにご通知なされたほうが、これからの仕事、パートも役立っていくのではないかと思いますので、ぜひひとつご回答をお願いいたします。

#### (市長)

ありがとうございます。居場所については、地域の茶の間、実家の茶の間のものとお話のあったコミュニティセンター、コミュニティハウスのようなものはランクあるいは役割も違うということでもありますけれども、今後、それぞれのエリアでどのような公共施設がどのように配置されていくのかと。そして、人口あるいは面積と比較してどうなのかという、各区、そしてコミュニティ協議会単位も出せると思います。そういうものを見ていただきながら、今は相当アンバランスがあるというのは間違いございません。これを今後どう機能を拡充しながら、しかし施設の数は限定的にさせていただくということ、まずは、例えば、下町の二つの中学校が一つになり四つの小学校が一つになったところ、今まで校舎、校庭だった場所をどうするかというのを優先的にご相談させていただいていると。田園型では西蒲区の潟東地区が三つの小学校を一つということで決断いただきましたので、そういうものを優先しながら、すべてのエリアで公共施設の状況を見ていただきながら、ではどうしていこうかと。財政のほうも見ていただくということで、新年度から本格的にやらせていただきたいと思っています。

待機児童ゼロは新潟市が勝手に名乗っているわけではなくて、厚生労働省の基準で言うと待機児童ゼロなのですということでございます。その中でよく言われるのは、ゼロ歳児、希望のところには入れないというお話、これはそのとおりのところがけっこうあると。ゼロ歳児はいつお生まれになるのか分からないわけでございますので、なかなか年次計画の整備計画に反映させにくいという部分がございます。ただ、ゼロ歳児でも複数の希望を出していただければ何とか対応しているというエリアがほとんどでございます。

そしてもう一つ、今のパートのお話も、例えば、求職中だとか週 1 回働いているとかそういう方の、恐縮なのですけれども、今現在働いている方に比べると保育園

に入る優先順位が下がるわけでございます。そうすると後回しにされていくと。求職中の者について、これは入れないのだというところが多いわけでございますし、私どもも、できれば求職中の方も保育ができるようにしたいと。そうすればまた働いていただいて、そして自己実現もできますし、新潟の活性化の面でもいいわけでございますので、そういう部分もできるだけ保育園に入れるようにしたい。しかし、優先順位があるので、少し遅れてしまう。また、働いている方でも私は絶対にここの保育園でないとだめなのだとされる方には、残念ながらご希望に応えられないことがあります。複数出してくださいというのが厚生労働省の待機児童ゼロの基準ということになっているので、待機児童ゼロの看板を勝手に掲げているわけではないが、実態はそういういろいろご迷惑、ご心配をおかけしているところもあるというのが実態だと思っております。

そして、最後に聞かせていただいた個別の例については、具体的に後で担当に聞かせていただいて、どうなっているのか確認して、ご心配が早めに解けるようにしたいと思います。ありがとうございました。

**(外内委員)**

一つだけ。テレビの報道でも、今の廣瀬委員へのご回答でも、市長は事業に対して国から助成があるから市の負担が少なくていいということをよくおっしゃるので。私は家でテレビを見ていると違和感があります。我々は市民であるとともに国民であるのです。国から助成金がくるとそのお金は天から降ってくるわけではないので、その辺は何か、言葉の綾ではないのですけれども、やはり言葉に注意をしてお話しされたほうがいいのではないかと感じましたので、意見として申し上げます。

**(市 長)**

ご忠告ありがとうございます。しかし、新潟市長としては、絶対に新潟のまちづくり、活性化のためにありとあらゆる機会、制度を活用すると。そして、我々のやり方が正しいから国からこういうものが優先的にくるのだということで、これは私どもの政策、施策が正しいのだと。そしてより、国民全体のものではありませんけれども、新潟市がモデルになっていいまちづくりをすることが新潟市民の誇りにもなり、そして日本のモデルにもなるのだという気持ちで取り組んでいるので、これからもきっと申し上げると思います。

**(議 長)**

ありがとうございました。

時間も押し迫ってまいりました。最後にあと一人お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**(伊藤委員)**

新潟地区コミュニティ協議会の伊藤でございます。2点、端的に申し上げます。

第1点、ひまわりクラブの受益者負担のアップが否決されました。来年度、またもう一度市でやると新聞情報で聞きました。これにつきまして、私自身は値上げをする理由をもう少し皆さんに分かるように説明していただきたいと思っております。その理由が何かということ。つまり、6年生までひまわりクラブの増員になったわけですから、それに携わる職員も多くなった、人件費がアップするのは当然です。その

ためのカバーをするということになるのか、今まで出費しているもののカバーを圧縮しようとしているのか、その辺の本音の部分をはっきり一般市民に伝えていただきたい。それと、市議会の皆さまにおかれては受益者負担が全部だめだというのはなくて、それで生活されている先生方がいらっしゃるということ。それもボランティアでやっている方もいらっしゃること、その辺も考えて、一方通行の議論ではなくてトータルで考えていただきたい。これが1点です。

もう1点、BRTなのですが、近い将来、BRTがどうしても無理だという形がもし出れば、廃止ではなくて、右回り、左回りの山手線みたいな大きなラインで通行させる。それを起点として中央部分に発生させる。今のワンウェイではなくて、大きな循環を考える。例えば、南のほうは新潟市民病院、それからデンカビッグスワンスタジアム、北においては柳都大橋、大きな路線がある。それを左回り、右回りに回す。起点からの集中に中に通す。こういうことも考えて、今のBRTを生かすような、近い将来、そういう構想もしかるべきだと。廃止だけではなくて、もっと具体的に、嫌な話をすると、今までであればBRTは残念ながら長岡市が一番いいと私は思っています。融雪設備、全部そろっています。であれば、そちらのほうが、よほど効率がいい。新潟市はそれに対する、今、除雪がうまくいったと言うけれども、集中だからできるのです。それに対するほかの除雪がどうなのか。考えた場合に、端的に言えば、長岡市が一番いいのではないかと。少し皮肉っぽいですが。私が言いたいのは、近い将来、構想としてそういう大きな循環を考えたらいかがでしょうか。

#### (市長)

ありがとうございます。ひまわりクラブにつきましては、私どもの説明不足というのも確かにあったと思います。これについて、小学校6年生まで拡充されて、昨日、東区で自治協議会の同じ会議があったのですけれども、そこでひまわりクラブを実際に担当されている方から、やはり小学校6年生になって、しかし一人で、家で留守番ができないという子どもが、実際には手間のかかる子どもが多いのですと。それにもかかわらず、担当する職員の増員とかそういうものは認められないと。本当に大変なのですというお話を頂きました。私たちもこれからひまわりクラブの環境、施設面をよくしていく。これは文部科学省も学校施設をしっかりと使いなさいということを明確に打ち出しましたので、より教育委員会、学校との協力関係も進むのではないかと。そういう環境面の整備も大事ですし、やはり何といてもひまわりクラブを担当している職員の方、本当に頑張ってくれているので、その頑張りに報い、そして持続可能にしていくために、私たちはもう少し受益者負担をお願いしなければいけないのだということを、より、いろいろな比較数字も出しまして、これから、今大変なのですけれども、このまま放っておいたら本当に持続可能にできませんという部分もしっかり説明できるように、さらにほかの地域も勉強して、より分かりやすい検討資料を出したいと思っています。

そしてBRTなのですが、まさに私ども、今お話があったような第2段階に進みたいということで考えております。新潟駅も連続立体交差事業が終了すると、正に新潟駅、南北につながるわけですので、今のルートを循環線にしていくと。そのときには弁天線から公園線、市民病院のところから今度は市街地へ戻ってきて、恐らく

千歳大橋になるのでしょうか、あの辺りを通って新潟県庁あるいは信濃川を渡って今の BRT のところとつながると。これを一刻も早く実現したいと思っています。この大循環線を作って、そしてそこに各方面、多様な方面からアクセスができるという形が、新潟の今のバスの財産を生かしながら一番投資効果の高い、事業効果の高いやり方ではないかと思っております。またいろいろ意見を頂きたいと思っております。ありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。

篠田市長はこの後、公務のためここで退席となります。篠田市長、ありがとうございました。

(市長)

最後にご挨拶を一言。

今日はどうもありがとうございました。限られた時間でしたが、いろいろなご意見を頂いたということで、しっかりと意見、頭に置いてこれからもやっていきたいと思っております。

そして、地域包括ケア、正に地域で医療、介護が受けられるこのシステムを、8区全部で一応立ち上がっているのですが、全域に空白域がないようにこれからやっていく必要があると思っております。そういう中で、最近見たデータで少し心配なものがございました。今まで在宅でお亡くなりになる方の割合が一番高かったのは長野県というのが定番でございまして、それは医療機会が少ないという、長野県の弱点もありますが、家族の絆、地域の絆が強いという部分でそうなのだろうなと思っておりましたが、2013年には東京都がいきなり在宅死率ナンバーワンということになりました。これは東京に地域の絆、家族の絆が豊富だとはなかなか思えない。そうするとどうということなのかをチェックしたら、3分の1が孤独死であるということだそうであります。そういう恐ろしい状況が3大都市圏、特に東京で発生していると。新潟市で絶対にその轍を踏むわけにはいかないということだと思いません。国は2040年に49万人ほどが病院でも死ねない、介護施設は入れない、自宅は死ぬ環境がない、しかし49万人はどこかで死ななければならないという恐ろしい予測をすでに何年前に出しておりますが、これが、本当に兆候が出てきたのではないかということでもあります。そういう面では、私どもも、BRTも一生懸命やりますけれども、本当に地域で医療、介護を可能にする地域包括ケア、新しい支え合いのしくみを今年作らないと、介護保険制度の移行も大変ですし、それ以降も大変なのだということのように痛感させられました。今後様々な、そういうあまり見たくないデータも自治協議会あるいはコミュニティ協議会の皆さまに見ていただいて、健康データも見ていただきたいと思っております。地域で相当差があります。いいところは大いに伸ばし、健康面で心配な地域はやはりみんなで健康づくりを頑張ろうという形で健康寿命の延伸を新潟市、全力でやらせていただきたいと思っております。また皆さまから様々なご意見を賜り、またご実践もできるだけ賜れるように、新潟市の本気度も見せる必要があると思っております。

今日は限られた時間で申し訳ありませんでした。また今年、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(議 長)

ありがとうございました。

(市 長)

では、失礼します。ありがとうございました。

### 3 報告

#### (1) 水と土の芸術祭 2015 事業実施報告について (資料 報 1-1 1-2)

(議 長)

それでは、本日配付しました次第をご覧ください。報告が 3 点でございます。次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

報告「(1) 水と土の芸術祭 2015 事業実施報告について」でございます。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

皆さま、こんにちは。私は水と土の文化推進課長の塚原と申します。本日は、貴重なお時間を頂きまして、大変ありがとうございます。昨年実施いたしました水と土の芸術祭 2015 の実施報告ということで、本日はお邪魔させていただいております。せっかくの機会でございますので、ぜひ、皆さまからご忌憚のないご意見やご感想などを頂いて帰りたいと思っておりますので、ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

お手元に配付いたしました資料は報 1-1 と報 1-2 の 2 種類でございます。1-2 が実施報告書の本冊でございますが、これは全 87 ページということで大変情報量が多くなっておりますので、本日は要点を抽出いたしました 1-1 に基づきまして説明を進めてまいりたいと思います。なお、1-1 の資料の中には隅付き括弧の中に本冊 P2 ですとか書いてあるところが多々ありますけれども、これは事業報告書の本冊の掲載ページをそれぞれの項目に記載しているということで、ご理解いただきたいと思えます。

まず、1 番の会期をご覧いただきたいと思えます。記載がございますとおり、今回は過去の芸術祭の会期の約半分でございます 87 日間で開催いたしました。

2 番の会場につきましては、鳥屋野潟をはじめといたしました新潟を代表する四つの潟を中心に市内各所で展開いたしました。

3 番の主な事業内容でございます。(1) から (5) まだが本芸術祭の事業を構成いたします 5 本柱でございます。こちらについてご説明いたします。まず、1 本目の柱、(1) 市民プロジェクトです。これは市民の皆さまが自ら企画運営し、地域の魅力を発信する事業に対し支援を行ったもので、市内全域で 109 件の多彩なプロジェクトが展開されました。この内、過去の芸術祭でつながりのできましたアーティストを招聘するもので、アートプロジェクトとしても位置付けたものが 11 件に上るなど、大変大きな盛り上がりを見せていただきました。

2 本目の柱でございます。(2) こどもプロジェクトです。次の世代を担う子どもたちの個性や創造性、心豊かな人間性を育むことを目的に記載の事業を実施いたしました。①のワークショップといたしまして、アートだけではなく踊りや音楽、食

など多彩なプログラムを 30 回実施したほか、六つのプログラムを学校への出前授業という形で実施いたしたところでございます。②のみずつち給食では、芸術祭及び東アジア文化都市の開催にちなみまして、オリジナルメニューを開発し、170 校において提供したほか、③みずつち合宿におきましては、東日本大震災の被災地の子どもたちと新潟市の子どもたちが交流する 2 泊 3 日の合宿を 2 回実施いたしました。

3 本目の柱でございます。(3) アートプロジェクトです。今回の芸術祭では 56 作家による 69 の作品を展開いたしました。この内、パフォーマンス部門においては鑑賞型と参加型で計七つのプログラムを実施いたしました。

4 本目の柱、(4) シンポジウムでございます。自然との共生をテーマにシンポジウムを 4 回実施したほか、芸術祭の参加作家や有識者との座談会も 5 回実施いたしました。

5 本目の柱、(5) 食・おもてなしでございます。まず、①のカフェの内、アの瀉るカフェですが、これはキッチンカーとカフェのしつらえである屋外アート作品が形を変えながら四つの瀉を 3 週間ごとに移動し、それぞれの地域における食材を生かしたオリジナルメニュー、ランチや飲み物などを提供いたしました。また、食の交流会と題しまして、地域ごとにテーマを変えながら食材の生産者、料理人、そしてお客様をつなげる食の交流会イベントを 5 回開催いたしました。イの瀉るカフェ購買部につきましては、旧二葉中学校で展開いたしましたベースキャンプにおきまして、お米や東アジアをテーマに軽食や飲み物などを提供いたしました。②地域のおもてなしにつきましては、メインフィールドであります四つの瀉とその周辺におきまして、地域の皆さまから瀉舟の乗船体験やガイドツアーなど、10 のプロジェクトを実施いただきました。

以上が芸術祭の主な事業内容でございました。

次に、4、来場者数でございます。来場者の延べ人数は表の一番右の欄に記載のとおり、約 77 万 5,000 人となりました。今回は一部の有料講演を除きまして観覧料を無料としたことから、気軽に何度でも参加いただけたのではないかと考えています。

1 枚おめくりいただきまして、2 ページをご覧ください。5、決算見込みでございます。これも一番右側が今回の 2015 年の決算見込みでございます。総事業費は約 2 億 5,500 万円となりました。この内、市の負担分は一番下の行になります、約 1 億 6,300 万円となる見込みでございます。

次に、6、主なアンケート結果でございます。来場者の居住地につきましては県外の方が 32.4 パーセント、満足度につきましては満足・ほぼ満足が 60.5 パーセントという結果になっております。

以上が芸術祭全体の実施概要でございます。

7 からは、中央区で実施いたしました事業について本冊から抽出したデータが 10 ページまで続いております。こちらについては後ほどご覧いただければと思っております。

今後につきましては、この実施報告に加えまして各種アンケートの分析結果や経済波及効果、それから各界からのご意見などを取りまとめた上で総括報告書を、現



在、作成している最中でございます。

以上、簡単でございますが、水と土の芸術祭 2015 の事業実施報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。

只今の事務局の説明につきまして、何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(廣瀬委員)

豊照地区コミュニティ協議会の廣瀬でございます。

大変分厚い事業実施報告書を読ませていただきました。素晴らしい内容だったということで感銘いたしておりますが、2, 3 お聞きしたい点がございますので、分かるところでけっこうでございますが、お教えいただきたいと思えます。

まず、四つの潟をメインフィールドとして7月18日から10月12日までの87日間ということでございますが、この中の来場者、77万5,268名とあります。これは単純計算しますと、日にちで割りまして1日8,900人ということでありますが、会場が非常に広範囲にわたっているということで、この109件のものを含めた来場者の集計をどのようにおやりになったのかが一つです。

それから事業実施で応募件数が132、採決が120という、今回の事業の基本設計といえますか規定に基づいて、最終的に実施が109件、先ほど申し上げた数字でございます。それから助成金が事業報告書の8ページに載っておりますが、助成対象経費の10分の10、また、1事業については上限50万円となっておりますが、これは出品者の経費負担というのは相当あったのでしょうか。

次に、実施事業一覧として報告書の8から13ページ、109件とあります。非常に短期間のものも含めて109件でございます。私の感覚がずれているのか分かりませんが、芸術祭ということなので、アートとかそういうものが主だったのかなと思って見ておりましたら、先ほどご説明いただいたようにいろいろな行事が入っておりました。入場者、報告書の82ページに市民プロジェクトとしてのアートプロジェクトに位置付けた11件を含めて13万人、(3)としてアートプロジェクト57万6,000人ということでございます。今申し上げましたとおり、77万の内に、これに非常に集中されているのは、やはりアートを主としたものが主体であったと感じています。しかしながら、この中で、広報活動としていろいろなチラシ、ポスターあるいは新聞、テレビ等において、48ページ以降だいぶおやりになったということは大変なご努力だと敬意を表す次第でございますが、これだけやった割に非常に参加者が少ないのではないかと。それからアクセス、場所がどこにあるか分からないという市民感情、私どもも市政だよりを見てもどこにあるのだろうか。特に、新潟が大変長い方はその地名が分かるのですが、これは私自身の問題でございますけれども、あまり新潟の土地勘がない者はどこにあるのだろうか。チラシをかなりお配りになっているようですが、果たして本当に一般市民までそういうものが届いたのかどうかということが一つございました。

それから、来場者は先ほど申し上げたのですが、これは各コミュニティ協議会等へ要請が出ておりまして、市からバスを出すから参加者を募ってくれという要請が出てはいるのですが、行政文書に対しての効果というか、どれくらいの方数がそ

の要請に応えられて集まって、その77万人の中にいらっしゃるのか。

もう一つお尋ね申し上げますが、バスで湯巡りとか、ベースキャンプの旧二葉中学校に行っていらいっしゃいますけれども、この人数も非常に回数も多いのですが、ベースキャンプ行きシャトル便、運行77日、延べ人数で4,100人ということでございます。これは1日当たりにすれば53人。もう少し、20分ごとに出ていますので、1台当たり大したお客が乗っていなかったのだということは、先ほど申し上げた、広く宣伝が行き届かなかったのかなということを、まず、実感いたしました。

それからもう一つ、湯巡りにしましても運行31日、延べ458名。1日当たり15名です。もう少し宣伝すればこういうものに乗って回りたいという方がいらしたのではないかということを実感いたしました。

大変ご苦労されたのに批判ばかりしているわけではございませんけれども、その辺、次回に、ぜひそういうものを取り入れていただいて、ひとつご配慮いただければ、もう少し盛り上がった芸術祭ができるのではないかと痛感いたしましたので、その辺、ひとつ今後、読ませていただいた中で、宣伝費、六千何百万円もかけた割には人の集まりが悪い中でおやりになったのかなと。本来ならば市長がいらっしゃるときにご質問すればよかったですけれども、芸術性の高いものをアピールされる市長に対して一言申し上げたかったですのですが退席されましたので、そういうことで課長に、ぜひ、今後の運営上、この辺にもう少し気を使っていたきたいと思えます。十日町でも同じようにやっております。これとのコラボをやるとか、単独ではなくて、よそのものでもバッティングしてやるとかということをお考えになって、時期などの問題もございますけれども、そういうものを広くお考えいただいて、新潟だけではなくて、県外にも宣伝していただいて、新潟事務所もございましょうし、三越前にサテライトもございます。原宿もございます。そういうところでもう少し啓発活動をやって、せっかく二億何千万円もお金をかけてやっているの

で。  
どうも新潟市長は2億円という数字が好きなのです。2億8,000万とか2億7,000万とか。なぜこの2億8,000万に市長がこだわるのか、少し解せないのですけれども、この芸術祭も二億七千何百万ですか、最終的に2億5,000万円くらいでございますけれども、そういう意味で、もう少し、使われる費用ということなのですから、もう少し効率的にいろいろお考えいただいて、アートのところを巡って回るような、高齢者も行ける、足の面をひとつご配慮いただいて、今後の運営にお考えいただければと思ひまして、一言お願いというか苦情というか、申し上げさせていただきました。

(議長)

今、廣瀬委員からご質問とご意見と両方ございました。ご質問についてのみ、今回はお答えいただきたいと思ひます。よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。まず、来場者の集計方法ですけれども、先ほどからご覧いただきました報告書の本冊の82ページに事業ごとの来場者の集計表がございます。委員おっしゃるとおり、ベースキャンプとか箱物については職員がカウントできるのでありますけれども、湯に置いてある作品などはそれができないものですから、

一定の日にちにスタッフが一定時間いて実数をカウントして、それを基に推計値を出しているという状態です。77万5,000人というのは、前回の芸術祭が72万人ということで、会期が半分になったものですから、それを加味したうえで伸び率も考えながら、目標値としては55万人という設定にしたのですけれども、それに対しては何とかクリアできたと思っていますが、ほかの自治協議会でも同じようにもっと人が来てほしいというご意見も頂きましたので、これについては中身、それから広報のやり方についてはどんどん、今回の成果の課題をきちんと総括したうえで次に生かしていきたいと考えております。

あとは、市民プロジェクトの経費負担については、ほぼすべての団体においてある程度の自己資金というのは結果的に出している形になります。50万円上限ですけれども、平均すると大体35万円くらいの実績になりますので、事業の内容にもよりますが、それぞれの自己負担もいただいているのが現状でございます。

あと、いろいろございましたけれども、アクセスの問題については、本当に今回の課題の一つだと思っています。元々潟をメインフィールドと設定した新潟の潟の魅力を市民の皆さまにも取り戻してほしいですし、県外から来られたお客様にも新潟市の特性をきちんと見ていただきたいということで、少しリスクだったことは確かなのですけれども、公共交通機関のない潟をメインフィールドとさせていただいたということです。それをなるべくカバーするというので、土日祝日にはメインフィールド行きツアーバスということで、半日で気軽に参加できるツアー商品を作ったという形です。乗車率としては六十数パーセントということで、予約が取れない日もあったくらいで、これについてはけっこうご利用いただけただけではないかと思っていますけれども、土日以外、平日のマイカーをお持ちでない方のアクセスには非常に不便なところがありましたので、これについても、ほかのところでも同様のご意見を頂いておりますので、大きな課題であると思っています。

あとは、大地の芸術祭とのコラボレーションというご意見も頂きましたけれども、これについても広報面、それからチケット等の販売、ガイドブックの販売の連携ですとか、同時期に新潟県内で二つの芸術祭が同時に開催するというので、新潟県の魅力発信という意味では大変大きな効果になると思いますので、これについては、今後も積極的にお願いをしたいと思っています。幸いなことに、JR東日本ではアート新幹線ということで、先般、新聞紙上にも発表されましたけれども、特別な車両を新潟と越後湯沢の間を走らせるということで、二つの都市の連携もJRは考えていただいているということで、ありがたく思っています。あとは、市内ではいがた総おどりなどのビッグイベントもありますし、海を渡れば佐渡で、アースセレブレーションも形を変えながらやっていただくということなので、大きな文化事業をなるべく連携させながら、広域的にお客さんが来ていただけるようなしくみはどんどん働きかけていきたいと思っています。

全部お答えできているかどうか分かりませんが。

(廣瀬委員)

要請が出ましたよね。これに対してどれくらいの反応があったのか。

(事務局)

ご要望ありましたら私どもで解説付きでツアーをさせていただきますということでご案内申し上げたところ、月潟コミュニティ協議会がお申し込みいただけました。あと、私どものガイドなしで独自にやったところについては把握していないので、申し訳ないです。

**(議 長)**

ありがとうございました。大堀委員お願いいたします。

**(大堀委員)**

浜浦小学校区コミュニティ協議会の大堀でございます。

数字のことについてお尋ねします。報 1-1 の 2 ページの 6、主なアンケート結果がございます。(1) 来場者居住地 32.4 パーセント。(2) 来場者満足度、満足・ほぼ満足 60.5 パーセント、不満・やや不満 7.8 パーセント。この数値を見ると非常に満足してお帰りになったという印象を受けます。これが数字のマジックなのです。ここのところに 86 ページ、来場者アンケート集計結果の (3) 居住地で、市内が 56.3 パーセント、県内が 9.8 パーセントなのです。これを抜けて、それから来場者、県外と国内を含んで、なぜここに県内の 9.8 パーセントの数字を、これは私が思うに、76 ページ、先ほども話がありました大地の芸術祭に負けているのです。県内の人みんなこちらの、新潟に来ないで大地の芸術祭へ行ったということが如実に出ているわけです。ところが、あなた方の来場者、居住地になると県外のことしか出ていないのです。これが数字のマジックなのです。

それから満足度。満足・ほぼ満足が 60.5 パーセント、不満が 7.8 パーセント。これも数字のマジックです。それは、総括は報告書があとから出るということでございますけれども、このアンケートを見ていまして、(1) から (6) までございませけれども、この中で無回答というのはみんな 1 パーセント台なのです。ところが満足度だけがなぜか 9.3 パーセントなのです。どちらともいえないとかやや不満、不満、無回答は全部この中に入るのです。こういう数字だけ見ると 60.5、これは成功したのではないかと。ところがそうではないのです。無回答するのがなぜ 9.3 パーセントもこの満足度のところに出るのでしょうか。ほかのところの回答は無回答がみんな 1 パーセントなのです。0.8 パーセントのところもあります。数字は実態を本当に表しますから、それをあまり料理していきくらないで出してもらったほうがよろしいかと思えます。

それからもう一つ、肝心なことなのですけれども、83 ページの助成金のところの一番上の 40 万円、私的録音補償金管理協会。新潟市とどのような関係があるのか、どのような協会なのか。数字は総括報告書を出されるとおっしゃいましたので、そのときにもう少し分析されて報告してください。60 対 7 では少し数字をいじりすぎるといえるか、恣意的です。こういうことがないように。40 万円のこれは聞かせてもらえますか。私的録音補償金管理協会というのは新潟市と何の関係があるのですか。

**(事務局)**

ありがとうございます。私的録音補償金管理協会についてはいろいろな音楽の著作権を管理するような団体でございまして、今回、私どもは大友良英さんというアーティストのコンサートをやりましたけれども、そういった事業に対して支援を

頂いたという形になっています。

あと、アンケートの結果については、今回、要点を資料報 1-1 に抽出することで、本当に要点だけまとめようということで数字を選びましたので、恣意的によく見せようとかそういうことでは決してございませんので、総括報告の中では具体的に報告していきたいと思っています。

(大堀委員)

(3) の県内から 9.8 パーセントというのは重く受け止めたほうがいいです。大地の芸術祭に負けているという。PR が上手下手ではないのです。やはり魅力がなかったということです。それも踏まえて総括のときにご報告していただけますか。以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

## (2) 部会からの報告について (資料 報 2-1 2-2 2-3 2-4)

(議長)

次に、報告「(2) 部会等からの報告について」でございます。「拠点と賑わいのまち部会」から順に報告を頂きます。ご報告は簡潔にお願いいたします。なお、ご質問等がございましたら、すべての部会からの報告後にまとめてお受けしたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

「拠点と賑わいのまち部会」座長の浅野委員からご報告をお願いいたします。

### ①拠点と賑わいのまち部会

(浅野委員)

座長の浅野でございます。

先般、1月26日火曜日、第9回「拠点と賑わいのまち部会」を開催いたしました。事務局よりグループインタビューの実施説明ということで、それから入りました。2月20日土曜日から21日日曜日の2日間で24名の参加者によって、1グループ6名ということで1から4の形でグループインタビューを開催いたします。なお、参加者においては、この中に書いてございますが、送付資料としてグループインタビュー説明書、まちづくり計画12案一覧、それから新潟市勢要覧、にいがた未来ビジョン等を同時に配付しまして、案内と一緒に一般参加の皆さんに送付いたします。

それからグループインタビューの実施に当たり、委員の配置、役割について皆さんと協議しました。第1グループ、第2、第3、第4のグループに皆さんを配置しました。10名の委員を全員配置ということで、全員参加で役割をやっていると思っています。

その後、委員による意見交換として、業者も参加していただきますということで、当日の進め方の確認等を行い、いろいろ意見交換をしまして、何とかこの状態でやっていけるのではないかと考えております。3月18日くらいまでに報告書を作成し、これを基にして来年度の部会の審査、いろいろな行事をやっていきたいと思っています。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

次に、「人にやさしい暮らしのまち部会」座長の田村（勝）委員からご報告をお願いいたします。

## ②人にやさしい暮らしのまち部会

(田村（勝）委員)

私から、お手元の資料に基づいて報告させていただきたいと思います。

1月15日に第11回「人にやさしい暮らしのまち部会」を開催させていただきました。委員17名の内15名の出席があったわけでございます。かねてからご案内申し上げていたとおり、この検討についてはA班とB班に分けてそれぞれの項目を検討してまいったわけでございます。その中で、1月6日にA班から提案をまとめていただきましたチェックシートにつきまして、代表者を募りまして、その中で検討させていただきまして、1月15日にイラスト等を再検討するという項目を残しまして、一応、来月の部会に提案していくという運びになりました。

また、B班ですけれども、これをいかに中央区民に啓発、周知していくかということで検討をしているところでございます。基本的には、各自治会、町内会の皆さん方にお手数をかけるわけでございますが、各自治会、町内会の皆さん方に配布をしていただくと。なお、またそれと併せまして、小学校へもこの辺のことを働きかけていきたいというところでまとめてあるわけでございます。

来月、これらを全体の部会の中で協議いただいて成案とする運びになっているわけでございますが、この内容を見ますと、非常にシンプルにまとめてあるわけでございます。しかしながら、少し蛇足になりますけれども、11月に3回、12月に2回、1月に3回ということで、合計8回の検討会を、部会員の皆さん方、精力的に検討を重ねてまとめた内容になっているわけでございます。2月に皆さん方にその内容について資料配付してまたお願いすることになるわけでございますけれども、特にいろいろと問題はありますけれども、部会員頑張ってまとめましたので、内容はともかくといたしまして、区民の皆さん方にわたるような形でご協力とお願いをする運びになっておりますので、また資料ができ次第併せてお願いいたしますけれども、今月の内に私からお願いする次第でございますので、ご協力いただきたいと思います。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして、「水辺とみなとのまち部会」座長の藤田委員からご報告をお願いいたします。

## ③水辺とみなとのまち部会

(藤田委員)

「水辺とみなとのまち部会」の藤田です。ご報告いたします。

第9回は1月13日に行いました。大きく三つ会議をいたしました。一つは、開港150周年記念事業の調査項目の最終チェックを行いました。二つ目が下町地域まちづくり団体とのネットワークづくり・情報交換会の開催を決めました。三つ目は夏休み企画事業として、名称「訪ねよう！北前船物語」～楽しい夏休みの社会科見

学～ということで、実施日とコースを決め、具体的に寄る場所も決めました。これが報告の3点であります。

簡単に行きます。開港150周年記念事業の調査については、コンサルタント担当よりアンケート内容の説明がありました。これは前回行いまして、変更点などを出したものを検討したということでもあります。主要な事業だけではなくて、関連事業も踏まえた調査をしよう。五港以外のアンケート候補地を当初20にしておりましたが、34へ増やしました。したがって、アンケートは五港用とその他の2種類を用意してアンケートをやるということです。委員の中からこのことで、集計の際に二つのアンケートの整合性を取れるのかということについては大丈夫ですということになったと思います。函館、横浜、神戸、長崎の四港を最大の基準として集計し、34はその関係との関連を見ながらできるということです。1月15日に発送しまして、2月3日に回収、集計できる予定で、来月の2月16日の部会には概要が出るのではないかと思います。

2番目、下町地域まちづくり団体との情報交換会を2月25日木曜日、2時から4時半まで、一昨年に続いて二葉コミュニティーハウスで行うことに決まりました。参加要請団体は書いてあるとおりです。①湊・豊照・栄・入舟の各4コミュニティ協議会の会長及び副会長、②早川堀通り周辺まちづくりを考える会、③新潟北部開発協議会、④下本町商店街組合の代表、⑤ウェルカム下町推進委員会、⑥堀割再生まちづくり新潟、⑦路地連新潟、そしてTM魁文化研究所というのは、前の旧小澤家住宅の館長であった方をご招待しよう、来てもらおうではないかと思っております。はぐって、参加の要請については発送することにしたのですが、こちらに田村幸夫委員がいますが、田村委員と私が主に、ご案内はできていますけれども、それを持って来月上旬、5日か10日くらい、1週間くらいの間に全部回ってお願いするということにしました。そして、当日については役割をいろいろ決めたということにしております。司会をコンサルタント会社にしようかというところが大きな違いかと思えます。

さらに、参加者を、アドバイザーとしてどうか、旧小澤家住宅の館長である野口さんも来ていただいたらどうか、話し合ってお願ひしてみようかということです。フリートキングを、時間をしっかり持って、本当にみんながいきいきと話ができるようにしようということです。2年前に一度やったのですが、その活動してきた内容を私どもが説明したり、あるいは参加された方にもしていただいたりして、開港150周年に向けた活動を今後も考えていく。継続して、ときどき情報交換会ができるように持続性を持っていきたいと思っています。

最後、3番目、夏休み企画事業です。えんでこと似ている場所が、一部ありますが、「訪ねよう！北前物語」ということで、夏休みの子どもと保護者が一緒というのがみそで、アンケートを取ることがみそです。日にちは書いてあるとおりAコース、Bコース、Cコースということで、それぞれ7月23日、8月18日、8月28日ということで、日和山、沼垂醜醉文化コース、西大畑コースと予定してあります。今後、コースの下見をしてしっかりした内容に組み立てていきたいと思っています。ぜひ、子どもにも分かる、記念になるような葉も作っていきたいと思っています。以上、終わります。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして、「中央区自治協議会だより編集部会」本間（之）委員からご報告をお願いいたします。

#### ④中央区自治協議会だより編集部会

(本間（之）委員)

本間です。今日は井上座長が欠席しておりますので、代わりに説明させていただきます。

第 5 回「中央区自治協議会だより編集部会」を 1 月 13 日に行いました。委員の中で 6 人中 4 名出席いたしました。

議題は 2 点です。1 点は第 12 号発行についてです。その会議内容は、平成 28 年 1 月 17 日発行、もう発行しましたけれども、その予定の記事内容や各部会の写真などについて確認いたしました。掲載写真について、今後は部会の座長に原稿依頼をするときに写真も含めて提出をお願いするように依頼したいと思います。自治協議会活動について、部会の具体的な取組みなどがより区民に伝わるように、今後とも自治協議会だよりを活用していくことをお互いに確認しました。今後、自治協議会だよりの基本コンセプトは維持しながら、レイアウトの変更や記事内容に工夫を加えてより充実を図っていくことを確認いたしました。

2 点目の第 13 号発行についてです。その内容は、平成 28 年 3 月 20 日に発行する予定にしています。平成 28 年 1 月 29 日、今日なのですけれども、この全体会で各座長に原稿依頼していると思います。写真を添えて 2 月 19 日までに提出していただけたらと思います。ご協力をよろしくをお願いいたします。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

只今の報告につきまして、何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。

#### (3) 委員からの報告について (資料 報 4)

##### ①区自治協議会会長会議

##### ②中央区支え合いのしくみづくり会議 (協議体)

##### ③新潟市国民保護協議会

(議 長)

次に、報告「(3) 委員からの報告について」でございます。では、区自治協議会会長会議について、私からご報告いたします。

資料報 3 をご覧ください。1 月 12 日、北区役所におきまして会長会議が行われました。議題はそこに書いてありますとおり、委員の全体研修会についてでございます。日程は平成 28 年 7 月 6 日を予定しております。会場は、今回、初めて東区プラザということで決定いたしました。

研修会についてでございますが、1 枚はぐっていただきますと、前回の研修会の際に取りましたアンケートがついております。それに基づきまして、内容等検討いたしました。皆さんのご意見の中で、講演会と意見交換会を両方やってほしいと



いう意見が 75 パーセントございましたので、それについて検討いたしました。テーマにつきましても、アンケート結果を尊重していくこととなりました。また、意見交換会の時間をもっと長くしてほしいという要望がありましたので、意見交換の時間を 120 分くらいと考えております。

②専門講座の開催についてでございます。希望者を対象としまして専門講座を開催の方向で検討することになりました。決まりましたら皆さんにご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。また、新任委員研修会では、もっと分かりやすく丁寧にしてほしいという意見が多く出されました。これについては今後検討していくことになりました。

区自治協議会課題の整理についてでございます。現在、委員の年齢が二十歳以上となっておりますが、選挙権の年齢引き下げに伴いまして、どうすればいいか検討させていただきました。この結果につきましては、もう少し検討のうえ、次回になるかと思っております。

それから委員推薦会議の構成についてでございますが、こちらにも偏りがあることから検討するという事にいたしました。

次回、平成 28 年 3 月 9 日に会長会議を予定しております。以上でございます。

只今の報告につきまして、ご質問等ありますでしょうか。

続きまして、私から中央区支え合いのしくみづくり会議（協議体）について報告いたします。資料報 4 をご覧ください。12 月 15 日午後 2 時から会議を行いました。今回から日本介護福祉士養成施設協会新潟県部会新潟市中央区校代表の新潟医療福祉カレッジと中央区コミュニティ協議会連絡会の 2 団体が加わったということで、お二人の自己紹介から始まりました。また、この二人が加わったことにより行政説明が行われました。地域包括ケアシステムの構築については仁多見参事から、支え合いのしくみづくり会議にかかる要綱と要領についての説明は地域福祉係長から説明がありました。

その後協議に入りまして、地域の茶の間については情報交換をさせていただきました。ごみ捨て支援活動についてもお互いに情報交換させていただきました。支え合いのしくみづくり会議、第 1 層ですが、コーディネーターの選出について協議いたしました。中央区社会福祉協議会の方に選出をお願いする声が多く寄せられまして、受けていただけるかどうか検討していただくことになりました。

要望としては、今後の区のかかわり、行政のかかわりについて、次回示してほしいというお話がございました。コーディネーターを受託したときにどうなっていくのか、次回、示してほしいという意見もございました。

今回は 1 月 27 日、もう終わりましたけれども、第 2 回中央区支え合いしくみづくり会議となっております。この件につきましては、次回、報告させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

只今の報告につきまして、ご質問等ありますでしょうか。

続きまして、新潟市国民保護協議会について、川崎委員からご報告をお願いいたします。

**（川崎委員）**

ご報告させていただきます。資料報 5 をご覧ください。

1月19日に新潟市国民保護協議会が開催されました。出席はそこに書いてあるとおり各種団体から、40名の内、35名の出席になりました。そして平成27年度新潟市国民保護計画の修正ということで、国民保護基本指針と新潟県国民保護計画の変更に伴うもの。2、新潟市地域防災計画を反映するもの。3、現行の新潟市の危機管理体制と整合性を図るもの。4、その他ということで、28カ所の訂正がありました。皆さんで協議の結果、そのまま修正が承認されました。

そのあと、国民保護実動訓練がDVDで放送されました。平成26年度に福岡市橋本駅でサリンが発生したという想定で、その救助体制や病院での治療の方法そのほかいろいろ訓練の様子を視聴しました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。

只今の報告につきまして、ご質問等ありますでしょうか。

#### 4 その他

(議長)

次に、その他でございます。前回の自治協議会で清水委員からお話がありました件でございます。清水委員から、新潟市商店街連盟が昨年10月17日土曜日に実施した歩行者通行量調査の結果について報告させていただきたい旨の申し出がありましたが、私といたしましては、調査団体の許可を得ていない中で発言いただくことについてその場で判断できなかったことから、総務運営会議で引き取りをいたしました。総務運営会議の協議では、すでに新聞報道等で公表されている内容については差し支えないと判断し、清水委員へその旨お伝えいたしました。こうした経過を踏まえ、清水委員からこの場で改めて説明させていただきたい旨申し出がありましたので、説明していただくことにしたいと思います。

それでは清水委員、お願いいたします。

(清水委員)

説明の機会を頂きまして、ありがとうございます。

市勢要覧によりますと、まちなか再生など環境問題やいろいろな対応に、マイカーに依存しなくても誰もが移動しやすい交通環境の実現に向けた取り組みを行っている。そこで、都市部においてより高いサービスを提供するため、新たな交通システムBRTの導入を進めているとうたっております。現状においてはこれが、真逆の結果が出ております。といいますと、去年行われました交通量調査でございます。結果的には、平成26年度と27年度の比較になりますが、古町の眼鏡院前では前年度、平成26年度と27年度の対比ですけれども、29パーセントの減、NEXT21前では25パーセントの減、本町六番町前では17パーセントの減、軒並みダウンしております。以上のことから、新交通システムがまちなか再生及び誰もが移動しやすい交通インフラ、乗り換えの不便から真逆の結果を生んでいるということははっきりしていると思います。このまま、私も先ほど申し上げましたけれども、春の運行変更までには商店街が大変な窮状を訴えている内容を聞くにつれ、間に合わない状態に陥っていると思っています。

それで心配なのが、セブン&アイ・ホールディングスのイトーヨーカドー丸大で  
ございます。いろいろ出入り業者の話を聞きますと、大変落ち込みが激しく、結果  
的にセブン&アイ・ホールディングスが出店再編の俎上に上がるのではないかと  
いう問題が危惧されております。私も新潟県及びその周辺の生活者が大変不利益を  
被る結果になることにつながると思っていますので、皆さんと共有の問題として中央区  
では取り上げていただきたいと思っております。

以上から、新潟市の新しい交通システムの改善と見直しを求めたいと思  
います。それぞれ委員の皆さんも考えを十分にいただきまして、お計らい願  
いたいと思っております。以上です。

(議長)

ありがとうございました。

清水委員からご意見を頂きましたが、委員の皆さまの中にもご自分の地域での状  
況から様々なご意見をお持ちの方がいらっしゃると思います。何かご意見のある方  
はいらっしゃいますでしょうか。この場ではご意見としてお話しいただきたいと思  
いますので、よろしく願います。いかだでしょうか。

(津吉委員)

新潟市南商工振興会の津吉です。BRTのお話をお伺いしまして、新潟市の中心商  
店街の皆さんもいろいろ見直しをお願いしているみたいですが、BRT、いわゆる都  
市交通と商店街の衰退というのは全く無関係の問題であって、BRTがお客様を減ら  
しているというのは中心部の皆さんの努力が足りないからだと思っております。た  
だ単にそういう消費者の移動がBRTによって減ったと。そこで商店街の来客、売り  
上げその他収益に影響している、賑わいがなくなっていると結びつけることはあま  
りに短絡的なのではないかと私は思っております。

もちろん、都市交通が、BRTがいいというわけではありません。これはまた一つ  
大切な交通網として今後再検討していただければと思いますし、商店街は商店街  
で、その地域は地域で努力していかなければならないと思います。なぜ商店街がだ  
めなのかというと、人が減って働く場所が中心部からなくなったからなのです。そ  
れを郊外の住居、それから郊外の商業施設に取られている。では中心部は自助努力  
をして来てもらえるような、不便なバスでも利用して来ていただけるような努力を  
すべきではないかと私は思います。単にBRTと中心部の衰退を短絡的に結びつける  
というのはいかなるものかと思っております。

(議長)

ありがとうございました。ほかに。伊藤委員願います。

(伊藤委員)

新潟地区コミュニティ協議会の伊藤です。今日、4月1日付から新潟交通が65歳以  
上半額にするというニュースが流れました。この結果、これが実行されたときの経  
過で今の古町の衰退が本当にプラスアルファになるのかどうか、これも大きな、今  
のBRTだけではなくて、実際に民間が、だれが補てんするか知りませんが、65歳以  
上半額の実効がどう出るか、この推移を見たら面白いかなと思います。これも要注  
意で、やはり活性化をしっかりと、そういうことも一つのアイテムになればと思っ  
ています。

(議 長)

ありがとうございました。大堀委員お願いします。

(大堀委員)

浜浦小学校区コミュニティ協議会の大堀でございます。

BRTに関していろいろご意見を皆さんお持ちなのは当然でございます。ここで私が声を大にしたいのは、BRTが走ると市長は新潟が、古町が活性化することをおっしゃっていたのです。これを謝るなり訂正するなり何とかしてもらわないと、BRTに対する不満は続出すると思います。萬代橋をBRTが走って観光客が来るというようなことまでおっしゃっているのです、その写真を見ながら。古町本町が衰退するのはBRTとは関係ございませんなどと新聞に出ていましたけれども。以上でございます。一言だけ。

(議 長)

ありがとうございました。ほかに。関谷委員お願いします。

(関谷委員)

万代地域コミュニティ協議会の関谷です。それに付随するかどうか分からないのですけれども、古町の人に努力していただきたいというのは、少し細かいのですけれども、駐車場です。駐車場を借りるのに2,000円で1時間なのです。ところが、次が8,000円で2時間なのです。そんなべらぼうな駐車料金の設定のしかたを未だにしているのです。そうしたら若い人は特に来ません。8,000円で2時間。そういうところから一生懸命企業努力していただければと思います。固定資産税とか諸々高いのは分かりますけれども、バブルの絶頂期と何ら変わらないようなやり方ではどうしようもないと思います。小さいことですが、すみません。

(議 長)

ありがとうございました。外内委員お願いします。

(外内委員)

鏡淵小学校区コミュニティ協議会の外内です。今、津吉委員からBRTと直接関係ないとおっしゃっていますけれども、どういうところに住んでどういう因果関係か分かりません。私ども川岸町ではりゅーとリンクといって駅から駅へ県庁経由で走っていたのが、BRTが走ることによって川岸町から乗ったら三つ目で市役所で乗り換えしなければならないのです。年寄りはその乗り換えが嫌だから、毎日のように古町や本庁に楽しみに買い物がてら、散歩がてら行っていたものが今度は面倒くさいから行かないという人がたくさんいるのです。だから関係ないということはないと思うのです。

今、BRTについて市長がなかなかたくなにBRTは成功裏に行っているように話しておりますけれども、今、こうやって意見を聞くと、皆さんが失敗ではないかというお話もあります。そこへ、先ほど私が質問したように旧大和デパートの跡地にBRTを乗り換え地点に引っ張り込むという話まで出ているので、どこがちょうどいいのかさっぱり分かりませんが、皆さんの意見を、今、清水委員が言いましたように、意見を調整しながら、やはり言うべきことを言っていたほうがいいのではないかと思います。以上です。

(津吉委員)

最後一言。お時間を頂いて申し訳ありません。私が住んでいるのは関屋で、会社の本社地は古町三番町、事業所が関屋、関新、女池地区、西区、東区とありますけれども、新潟市をほとんど網羅させていただいています。ですからどこがどうかというわけではなくて、私も根っこは古町の人間なので、古町には活性化していただきたい。しかし、見ているとそうではないので。今日は南商工振興会の立場でございますけれども、中心部、南商工振興会関係なく、中心地が発展することを望んでいます。

それで、BRTと結びつける必要十分条件が、十分条件、必要条件とあると思うのですが、だからといって古町がだめになっているわけではないのです。そうではない問題があるので、それをもっと解決しながら、それは自助努力しかないのです。BRTがどこに止まろうと、来ない人は来ないのです。そうならないように自助努力が必要だと。新潟市の古町商店街近辺に出している補助金などは全部なくしていただいて、自分たちで身銭を切って汗を流せと。これくらいのことを行政も言っていただきたい。そういうようなまちづくりをしていかないと古町は生き返らないと思います。だからBRTが必要十分条件ではないということで、意見を言わせていただきました。

(議 長)

ありがとうございました。清水委員，どうぞ。

(清水委員)

BRT自体は新交通システム，運搬道具としてのBRTがいかにまちなか再生というものをうたって，人にやさしい交通体系だという示しを出すためには，やはり，今，違うのではないかと。あれだけ乗り換えて目的地に行かなければだめだと。これが人にやさしいでしょうか。お年寄りに優しいでしょうか。違うと思うのです。まちなか再生のために新しい交通システムを入れるのであれば，もう少し交通体系そのものを考えていただきたいと。それが，今，市民が求めている姿ではないでしょうか。

(議 長)

ありがとうございました。皆さまからいろいろな意見が出ました。伊藤委員からは新潟交通が65歳以上を半額するからこれからの推移を見てみたいというお話もございました。春のダイヤ改正も予定されております。しばらく新バスシステムの状況を見守っていただきたいと思いますと思います。よろしく願いいたします。

以上をもちまして，本日予定されておりました議事はすべて終了いたしました。これをもちまして平成27年度第10回中央区自治協議会を閉会いたします。大変お疲れさまでした。

事務局から事務連絡をお願いいたします。

(事務局)

皆さま，お疲れさまでございました。

次回の開催のご案内をさせていただきます。今回は2月26日金曜日午後3時からとなります。会場は本日と同じ市役所本館6階講堂でございます。

本日は，長時間にわたり，皆さま大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

	<b>5 閉会</b>
傍聴者	4名
報道機関	1社